

HEM-Net シンポジウムの足跡



国際シンポジウム「ヘリコプター救急のあり方」

2001年11月14日

2001年11月14日午前9時30分から午後4時まで虎ノ門のニッショーホールで、国際シンポジウム「ヘリコプター救急のあり方」を開催、530名という大勢の方々にご参集いただいた。

司会はHEM-Net副理事長岡田芳明。

「日本の救急ヘリコプターの活動状況と問題点」と題した、川崎医科大学教授の小濱啓次氏より講演があり、続いてパリ・アンリ・モンドール病院救急医学教授のキャサリン・ベルトラン氏より「SAMU救急システムの教訓—医療主導の救急体制」と題した、フランスの救急医療システムについての特別講演があった。その後、理事益子邦洋よりHEM-Netの活動報告があり、パネルディスカッションに移った。



ヘリコプター救急システムの構築をめざして

2003年10月31日

2003年10月31日午後1時30分から午後5時30分まで全国町村議員会館2階会議室にてシンポジウムを開催。後援はセコム医療システム株式会社、全国共済農業協同組合連合会、トヨタ自動車株式会社、財団法人日本損害保険協会。

開会挨拶はHEM-Net副理事長岡田芳明、HEM-Netの活動計画について理事長國松孝次より、米国ヘリコプター救急調査報告を理事西川渉より、ドクターヘリの成果を川崎医科大学救急医学教授小濱啓次氏より。パネル討論は厚生労働省医政局、総務省消防庁、国土交通省航空局、道路局、警察庁交通局などからご参加いただいた、司会は国立病院東京災害医療センター院長の邊見弘氏。質疑応答では、軍事アナリストの小川和久氏や作家の柳田邦男氏らによる特別発言もあった。

ヘリコプター救急の進展に向けて

2005年3月25日

2005年3月25日午後1時30分から午後5時30分まで
全国町村議員会館2階会議室にてシンポジウムを開催。

開会の挨拶はHEM-Net 理事小濱啓次、調査報告について理事長國松孝次、基調講演は「これからの医療体系と救急ヘリ」と題し、慶応義塾大学・大学院経営管理研究科教授の田中滋氏。

パネルディスカッションは主題1が救急ヘリの費用負担について、主題2が救急ヘリ高速道路上への着陸をめぐってとし、総務省消防庁、厚生労働省医政局、保険局、警察庁交通局、日本損害保険協会、愛知工業大学講師などが参加した。コメンテーターは軍事アナリストの小川和久氏。柳田邦男氏が特別発言した。



独・瑞・米における救急ヘリ運用の実態 —ヘリコプター運航費の負担のあり方を中心に—

2006年1月24日

2006年1月24日午後1時から午後5時まで、開催場所は都市センターホテル会議場。

ドイツ、スイス、アメリカからヘリコプター救急の第一線に立つ専門家3名を招いて国際シンポジウムを開催した。基調講演は、「ドイツ航空医療システムの財務問題」と題し、スザンヌ・マツケアール氏（ドイツ ADAC 総支配人）、「スイスのヘリコプター救急と経費負担」と題し、ヴォルター・シュトゥンツイ氏（スイス REGA 広報部長）、「アメリカの航空医療搬送費」と題しケビン・ハットン氏（アメリカ AAMS 理事・医学博士）。パネル討論は基調講演者も交えて参加者全員討議した。





創立10周年記念シンポジウム

「ヘリコプター救急 新時代」

2009年6月27日

2009年6月27日、午後1時30分から午後5時30分まで、創立10周年を記念して「ヘリコプター救急 新時代」と題するシンポジウムを全国町村議員会館2階会議室で開催した。

開会の挨拶はHEM-Net理事長國松孝次、そしてドクターヘリ推進議員連盟事務局長 参議院議員 木村仁先生に挨拶をしていただいた。

基調講演は「いのちを守る社会を創る～確かな一歩が次なるステップへ」の題で作家の柳田邦男氏。パネリスト、パネルディスカッションは総務省消防庁、厚生労働省医政局、愛知医大高度救命救急センター看護師、長野県立こども病院長に参加いただいた。

ヘリコプター救急に関心をもちその普及を望む170人の方々の参加、熱気にあふれる討議を展開した。



HEM-Net活動の新たな展開

―「ドクターヘリ支援事業」の創設

2010年2月17日

ドクターヘリ特別措置法の立法趣旨を体し、「ドクターヘリ支援基金」の創設と「ドクターヘリ支援事業」を開始することになった。このHEM-Netの新しい事業展開について各位のご理解とご協力を得るために開催した。

2010年2月17日、午後1時30分から午後5時30分まで、全国町村議員会館2階会議室で開催された。開会の挨拶はHEM-Net理事長國松孝次、基調講演は「ドクターヘリが飛び、Aiが配備される新しい社会」と題し、作家海堂尊氏。パネリスト、パネルディスカッションは日本医科大学教授 益子邦洋氏、昭和大学医学部教授 有賀徹氏、岐阜大学医学部教授 小倉真治氏、東京大学医科学研究所准教授 上昌広氏、日本損害保険協会理事待遇 竹井直樹氏に参加いただいた。

ドクターヘリの安全を考える

2010年11月30日

ヘリコプターの墜落事故が相次ぎヘリコプターの安全運航に関する世の関心がとみに高まっているなか、さらに原点に立ち返り安全運航の絶対確保について検討するシンポジウムを開催。2010年11月30日、午後1時30分から午後5時30分まで、グランドアーク半蔵門3階「華の間」で行われた。

総合司会はHEM-Net 理事山野豊、開会挨拶は理事長國松孝次、基調講演は「安全の確保とヒューマンファクター」、医学博士・日本ヒューマンファクター研究所顧問兼安全人間工学研究室長 垣本由紀子氏、パネリスト、パネルディスカッションは国土交通省航空局、日本医科大学千葉北総病院院長 田中宣威氏、朝日航洋代表取締役 立野良太郎氏をはじめ、同社整備士、中日本航空機長、ANA 総合研究所前主席研究員 松尾晋一氏、航空・鉄道安全推進機構事務局長 藤原洋氏に参加いただいた。



交通事故自動通報システム (ACN) と 傷害予測の最前線

2011年8月3日

事故自動通報システム (ACN = Automatic Collision Notification) の研究の一環として2011年8月3日、午後1時30分から午後5時40分まで、国際フォーラムにおいて先進のACNに関するシンポジウムを開催した。

ACNと傷害予測の分野において世界的に著名なジョージワシントン大学のケナリー・エイチ・ディギス (Kennerly H. Digges) 教授とマイアミライダー外傷センター・ウィリアムリーマン傷害研究センターのジェフリー・エス・オーガスティン (Jeffrey S. Augenstein) 教授の両氏をお招きし、最新の研究成果の報告と米国におけるACNと傷害予測の現状を基調講演いただいた。





ドクターヘリと消防防災ヘリのコラボレーション —東日本大震災の教訓を踏まえて—

2011年11月25日

2011年11月25日、午後1時30分から午後5時30分まで、全国町村議員会館2階会議室で開催された。2011年3月の東日本大震災においては、18機にも上るドクターヘリが現地に飛び、救急・救助活動に活躍した。この数は当時全国に配備されていたドクターヘリ26機の約70%に当たる。一方、消防防災ヘリは緊急消防援助隊の航空隊として多方面の活躍をしたが、最大応援実働機数は47機に及ぶ。自治体のヘリコプターは阪神・淡路大震災の反省に立ってこのように見違えるような活躍をしたが、他方、多くの課題も見つかった。そもそも大規模災害時におけるドクターヘリの拠るべき基準はあるのか、また、共に自治体のヘリコプターであるドクターヘリと消防防災ヘリはどのように連携すべきなのか。実はこれらの課題は未だ解決されていない。しかし、東海地震、東南海地震及び南海地震連動の巨大地震が危惧されている今日、早く、一定の方向付けをすることが求められていることを掲げシンポジウムを開催した。

基調講演は「大規模災害時における救命活動と医療復活への道筋」という演題で岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・医学部 疫学・衛生学分野教授 土居弘幸氏。

パネリスト、パネルディスカッションは岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授 土居弘幸氏、災害医療センター臨床研究部長 小井土雄一氏、ドクターヘリ基地病院連絡協議会委員長 猪口貞樹氏、福島県立医科大学附属病院救急科部長 田勢長一郎氏、八戸市立市民病院救命救急センター所長 今明秀氏、厚生労働省医政局指導課長、総務省消防庁応急対策室の方々に参加いただいた。

ドクターヘリの広域運用

2012年10月17日

ドクターヘリ配備都道府県は30道府県を数え、近い将来のドクターヘリ全国ネットワークの構築も視野に入ってきている。量が増えれば質も変わらなければならない。今や、ドクターヘリの活動は単に当該道府県内に止まっているのではなく、その境界を越え、日常的に広域圏単位に運用していく必要性が高まっていることにテーマをおいて、2012年10月17日午後1時30分から午後5時30分までJA共済ビル カンファレンスホールで行われた。

開会の挨拶は理事長國松孝次、基調講演は元内閣官房副長官石原信雄氏、演題は「危機管理の要諦」。パネリスト、パネルディスカッションはドクターヘリ基地病院、6病院の救急救命センター長。コメンテーターとして総務省消防庁広域応援室長と厚生労働省医政局指導課災害医療対策室長に参加いただいた。



ドクターヘリ運用の多様化

— 地域医療、周産期・小児医療との連携 —

2013年9月26日

2013年9月26日午後1時30分から午後5時30分まで全国町村議員会館2階会議室で開催された。開会の挨拶は理事長篠田伸夫、基調講演は「地域医療、周産期・小児医療におけるドクターヘリの展望」と題し、宮崎大学理事・医学部附属病院長の池ノ上克氏。

パネリスト、パネルディスカッションは、救命救急センター等の医師6名に、コメンテーターは厚生労働省医政局指導課救急・周産期医療対策室長。総合司会は理事益子邦洋。





ドクターヘリと消防防災ヘリの協力体制の強化

2014年10月29日

ドクターヘリが地域医療や周産期救急、小児救急等に対応していくためには消防防災ヘリとの協働が欠かせず、また、多数傷病者事故や大規模災害の発生時には両者は重要な戦力として協働して活動することが求められている。そこで、ドクターヘリと消防防災ヘリの協力体制の実態や課題や問題点についてのシンポジウムとして、2014年10月29日午後1時30分から午後5時30分まで、全国町村議員会館2階で開催された。

開会の挨拶は理事長篠田伸夫、基調講演は「新潟県におけるドクターヘリの運用について」新潟県知事泉田裕彦氏にお話しいただいた。パネリスト、パネルディスカッションはJAXA 研究員、ウェザーニューズ社、関係省庁、熊本県防災消防航空隊隊長に参加いただいた。



ドクターヘリの安全運航をめぐる諸問題

2015年7月29日

ドクターヘリ配備道府県が全国の4分の3を超え、最も留意すべきは飛行の安全にほかならない。ドクターヘリは人命救護が目的であり、安全確保のための検証と討議をおこなうため、シンポジウムを2015年7月29日午後1時30分から午後5時30分まで全国町村議員会館2階で開催した。基調講演は「組織的取組みとしてのヒューマンエラーへの対応」と題し講師 関西大学社会安全学部・社会安全研究科教授 中村隆宏氏。

パネリスト、パネルディスカッションはドクターヘリ運航会社の操縦士や整備士、基地病院医師や国土交通省航空局安全部運航安全課長が参加された。コーディネーターは理事西川渉。